

# 言語教育を通じて人と人がつながるために。

## 垂直的学習に水平的学習を加え、 社会との接点を重視した言語教育を実践。

語学教育は従来、知識習得を目的とする学習が中心でしたが、本研究では教室内外での拡張的な学びを組み合わせる教育を実践。知識を積み上げる垂直的学習に、人々との交流を通じた水平的学習を掛け合わせることで、学生の主体性と自律性を育もうとしています。その取り組みの一つが「防災まちあるき」。外国人留学生在が地域住民と一緒に行動して学ぶ活動で、“言語教育で人と人をつなぐ”という理念を具現化しています。

研究代表者

石村文恵

ISHIMURA Fumie



立命館アジア太平洋大学  
言語教育センター 特任講師

「人と人のつながりを創出するための活動を学生と協働して行い、言語教育が持つ可能性をさらに広げていきたいです」

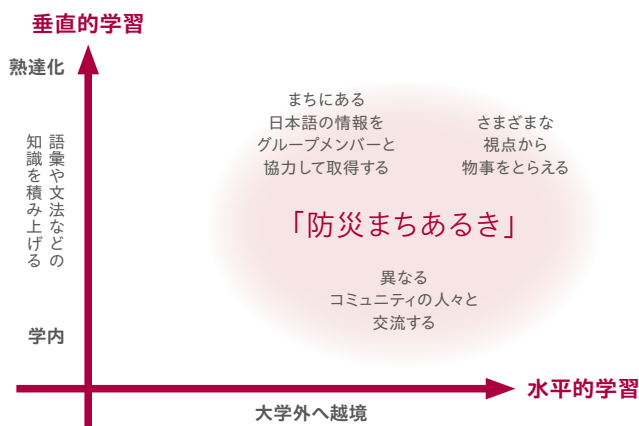
新規性・独自性

### 実践的アプローチで、学生が自ら学びを広げていける環境の構築を目指す。

本研究では、文法や語彙の積み上げを中心とした「垂直的学習」に、多様な価値観に触れる機会などを通して学びを拡張させる「水平的学習」を融合させ、言語教育の枠組みを広げるアプローチを実践しています。日本に留学している学生たちにとっては、新しい環境の中で生活することでさまざまな人に出会い、経験をし、それを意識化し共有していくことが、さらなる学びへとつながります。

そうした学習デザインの一つである「防災まちあるき」では、外国人留学生在が地域住民と共にまちを歩きながら地域の防災について学びます。学生が主体的に参加し、教室内の学習と地域での実践を結びつけることで、より自律的な学びが促されます。学生たちは防災という社会課題に関わり、自らの役割を見出し、持続的な学びにもつながっていきます。また、留学生と地域住民の共同活動を通じて自然な相互理解が促進され、日本語学習を通じた新たなコミュニティの形成も期待されます。こうした取り組みは、多文化共生社会における新しい言語教育モデルの可能性の一つを示していると考えられます。

日本語学習における「垂直的学習」「水平的学習」のイメージ  
（「防災まちあるき」の活用を取り上げた場合）



社会連携に向けて

### 言語教育を通じた人と人のつながりの実現。さらには、多文化共生社会の構築へ。

本研究は、言語教育を通じた多文化共生社会の実現に貢献できる可能性を秘めています。「防災まちあるき」の運営は、学生、教職員、自治体、一般社団法人と徐々につながりを築いてきました。他地域への発展としては、すでに宇都宮大学において防災と地域創生の研究者が協働し、同様の取り組みが始まっています。日本の地方は人口減少に直面する一方、在留外国人や旅行者は増加しており、日本語教育を通じた人と人のつながりの創出の必要

性は高まるでしょう。

また、この活動は異分野の研究者や学生との協働による展開が期待できます。本研究では建築・土木系の学生や建設会社との協働が実現しており、前述の宇都宮大学では防災と地域創生の研究者が中心となっています。教育機関との連携では、今後、水平的学習の考え方を取り入れた講座や研修などでの協働が期待されます。実践的な研究をさらに広げていきたいと考えています。



「防災まちあるき」で参加者はタスクをこなしながら、さまざまな体験ができる。戻ってからのワークショップでは、参加者が気づいたことをまとめ、話し合いなども行う。

